

**(件名) 日タイ間の入国規制状況とタイ人の訪日意欲について**

今回は、5月1日から新たにタイの入国規制が緩和されることを踏まえ、日タイ間の入国規制状況とタイ人の訪日意欲についてまとめました。

**1 日タイ間の入国規制状況について**

**(1) 日本からタイへの渡航について**

2022年4月30日現在、日本人がタイへ観光目的で渡航するにあたっては、ワクチン接種を規定回数完了していれば隔離なしでタイに滞在することが可能であり、日本出国前のPCR検査も不要となっています。5月からはタイ入国後のPCR検査も不要となり、ワクチン接種が完了していれば検査せずにタイへ渡航することができるなど入国規制の緩和が進んでいます。またワクチン未接種者も、日本出国前72時間以内の検査証明があれば隔離なしで渡航可能です(検査証明がないワクチン未接種者はタイ到着後5日間の隔離が必要)。

5月からは渡航手続きに必要な書類もかなり少なくなっています。パスポートや査証等通常渡航に必要なもののほかには、10,000USドル以上の治療補償がある医療保険証(英文)、ワクチン接種証明書、入国申請システム「Thailand Pass」から発行されるQRコードのみとなっており、タイへの入国手続きをより簡素化することで外国人の訪タイを後押しするタイ政府の狙いがうかがえます。

**(2) タイから日本への渡航について**

一方、日本では全世界を対象に査証発給が制限されているため、タイから日本へ観光目的で渡航できない状態が現在も続いています。日本人の帰国については、ワクチン3回接種者に限り隔離が不要となっており、それ以外の人は原則7日間の自宅隔離が必要です。またワクチンの接種回数等に関わらず、全ての入国者において日本入国前72時間以内の検査証明が必要となっています。

このようにタイ人が日本へ自由に観光できない中、タイ国内では次のとおり日本への渴望感とともに訪日意欲が高まっています。

**2 タイ人の訪日意欲について**

コロナ前からタイ人の訪日意欲は高く、リピーターを中心に、コロナ禍においても訪日意欲は衰えていません。右図は、2021年9月にJNTO(日本政府観光局)バンコク事務所がSNS上でタイ人に向けて実施したアンケート調査結果を一部抜粋したものであり、アンケート回答者の約83%が訪日経験のあるタイ人です。他国と比較してもタイ人の訪日意欲は高く、2020年11月時点のコロナ前の調査と比べても訪日意欲が高まっていることがわかります。



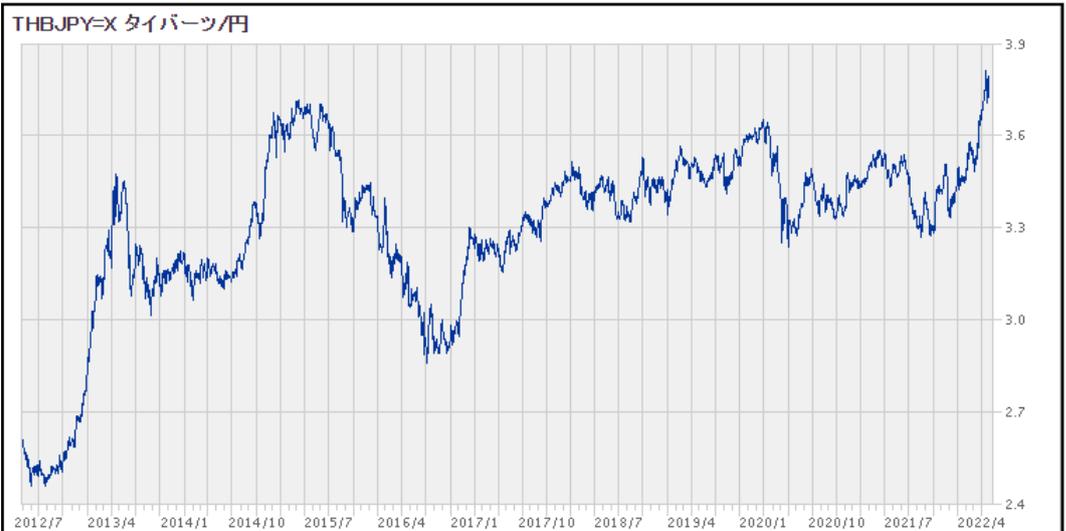
報告者：副所長 青谷 祐介

またタイでは近年、日本の雰囲気を感じる事ができるスポットの需要も高まっています。右の写真は、2022年4月に新たにオープンした施設「HARAJUKU Thailand」の様子です。施設内は日本の伝統的な街並みがモチーフになっており、日本風の建物の中に飲食店や土産屋などが出店しています。神社や提灯など日本を想起させる作りも数多くあり、SNS映えする人気スポットとなっています。このほか、2021年10月に東部のチョンブリ県にオープンした日本の雰囲気を再現したカフェ「のみすけ」や、2022年4月にセントラルワールドの旧伊勢丹跡地にプレオープンした「Nippon Market」など、日本をコンセプトにしたスポットが続々と増えており、日本への渴望感がうかがえます。



2022年4月にバンコク郊外にオープンした「HARAJUKU Thailand」の様子（筆者撮影）

そのほか、2022年3月ごろから現在まで続く円安基調もタイ人の訪日意欲を後押しする要因となっています。3月初めに1バーツ3.5円前後であったレートは、4月末時点では1バーツ3.8円前後にまで円安が進行し、右表のとおり、過去10年の中でも類を見ない水準となりました。そのよう



過去10年間のタイバーツ/円の推移（出典：楽天証券）

な中、アフターコロナの日本観光を見据えた多くのタイ人がバーツを円へ換えたことで、一時は一部の両替所で円が不足する事態にまで至りました。

以上のように、現在はいろいろな角度からタイ人の高い訪日意欲を確認することができます。そのため日本の入国規制が緩和されれば、多くのタイ人が訪日することが予想されます。北海道はタイで特に認知度が高い日本の観光地のひとつですが、日本の観光再開のタイミングで高い訪日意欲を北海道が取り込むにあたっては、コロナ前に定期運航していたバンコクー新千歳便のいち早い就航再開が望まれます。